

## 『正しい判断をしよう！』 ヨハネの福音書 7章14～24節 2017.10.1(聖日礼拝説教より)

『だれでも神のみこころを行おうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります。』 ヨハネ7:17

本当の神の御心を知り、従うにはどうすれば良いのだろうか？

❶**神の御心を取り違えるものとは(14～17節)**…イエスが宮で教えた時、人々は驚いた！「この人は専門教育なしに、どこで律法を学んだのか？(7:15)」。イエスは答える「(律法は)頭で理解するものではなく、神から与えられる知恵！御心を行おうと願う者なら誰でもわかる」と。御心は、それを行ないたいと願う者に明かされる！それは『心のうちに(詩篇 40:8)』刻むものであり、それは神に『罪を犯さないため(詩篇 119:11)』！神からの知恵は、生活の様々な場面で正しい判断を導き、神の祝福を実現する。『幸いなことよ！その人は主のおしえを喜びとし、時が来ると実がなり、何をしても栄える(詩篇 1:1～3)』！◆イエスは、2つの点でユダヤ人たちの偽りを指摘！十戒に『殺すな』とあるが、どうしてわたしを殺そうとするのか(7:19～20/5:18)！『安息日にどんなわざもするな』と唱えてイエスの安息日の癒しのわざを咎めるが、安息日に割礼を施すのは問題ではないのか(22～23節)。24節『うわべだけで善悪を判断せず、神の御心を正しく判断せよ！』と。

❷**御心になかった正しい判断をするには(24節)**…3つの視点がある！①「うわべでなく、本質(事実)で判断する(7:24)！宗教改革の頃(500年前)、カトリック教会は「天動説」を唱えていたが、実際は「地動説」！罪の赦しは「免罪符を買うこと」によらず、神の恵み・贖い・信仰による！本当の事実を教えてください！とまず神に祈りたい。②「律法的」でなく「福音的」に判断！ユダヤ人たちは「安息日」ネタでイエスを批判しながら、その本当の意味を理解していなかった！安息日は、人が神の祝福に与る日！「何もしない日」ではなく、「恵みのわざをする日」！救いを喜び感謝し、交わり祈り、力をいただく日。全ての出来事を、「神の恵み」の視点で判断したい！③まず信じてこそ実感できる！「誰でも、神のみこころを行なおうと願うなら神からのものがわかる(7:17)」！世の人は「わかったら信じる」というが、実際は逆！信じたら神の恵みがわかる！神の愛、救い、永遠の御国の約束…は、信じてこそ納得し実感できる！（マルコ 11:24、使徒 16:31）。

★歴史を通して世界中で、神の救いの恵みが信じられ、証されてきた！今度は、あなたが、その御愛をまず信じて、その素晴らしさを体験し、実感し、納得される番ではないだろうか？